

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

大学記念資料室の組織はヨーロッパにはその例が多く、本学もそれを範として開設したのですが、米国では幾つかの古い私大を除いてはあまり多くなく、むしろ多くの州立大学は創立100年に達したここ20年くらいの間に、続々と設立しはじめたようです。本学の記念資料室は世界でも発足の早い方ということになります。勿論、日本の国立大学では最も早く、東大や京大で同様の組織をつくる計画が動き出したのはここ2～3年のことでもあります。多くの大学が本室を参考として動き始めています。



この輝かしい歴史に加えて、この美事な建築物（それが同時に記念物である）を与えられた本室は、その幸運をよろこび、寄せられた多くの好意に感謝しつつ、新しい前進を目ざさねばなりません。各位の倍旧の御援助をお願いするものであります。

最後に一言謝意を表すべきは第二高等学校尚志同窓会に対してであります。同校は本年創立100周年を迎え、この機会に多くの史料を収集し本室に寄贈され、本室はこれと従来所蔵していた同校資料と併せて、約10日間の特別展「創立百周年第二高等学校史料展」を開催しました。また二高同窓会はこの機会に大展示室に優秀な備品を数多く寄附して、本室に大きな力を加えられました。この他二高同窓会の方々は本室の新館開館に関しても大きな陰の力となって、石田学長や塚本室長の奔走を助けられました。実情に接したものとして、ここに感謝の意を表するものであります。

（東北大学記念資料室副室長 原田隆吉）

「習うより慣れよ」

——昭和61年度第1回総合目録データベース実務研修

（1986年5月27日～7月21日）に参加して——

整理課洋書目録掛 阿部佳市

この研修は学術情報センターの「目録所在情報データベースのデータ入力（目録業務）のための各接続図書館における中核的、指導的人材を養成する」もので、その内容は講義、演習、目録実習、見学からなっている。

東北大学でも62年1月にセンターと接続する予定であり、分担目録の一翼をになうことになればセンターの目録システム入力規則をマスターしなければならない。規則の習得は早ければ早い程良いと思い研修に参加することにした。そして期待

と不安の中、センターの門をくぐった。

センターでの生活は、これを受けないとセンターに「目録登録」できないという「目録システム講習会」(3日間)を受け、この日から目録端末に向う日が始まる。講習会が終ると目録実習と演習が、それぞれの課題に添って各自が自主的に計画をたてて行なわれる。目録実習はセンターの目録規則に従い、かの有名な書誌構造リンク、著者名典拠コントロールを、マニュアルの不備のもと、ときおりシステムダウンのつづく中、センター職員やタスクフォースの人達が付きっきりで指導してくれた。演習は「目録システム講習会」

用テキスト作りが課題で、研修員全員で分担作成した。

センターでの8週間は「習うより慣れよ」「求めよ、さらば与えられん」といったモットーのもとに鍛えられた。満2才のシステムがダウンにもめげず、それでもなお動かなければならない運命とそのガンバリに「やるしきゃない」と肝に銘じつつの毎日、それもまた楽しからずやの心境であった。

そしていつの日か「我々のシステム」と言えることを願いつつセンターの門を後にした。

学術情報センター・セミナーに参加して

整理課和漢書目録掛 松 井 好 次

標記セミナーは5月19日～7月19日、9月2日～10月13日の延べ15週間にわたって同センターにおいて開催された。学術情報センターは衆知の通り今年の4月3日に東京大学文献情報センターを発展改組して設置されたばかりであった。参加者は私を含めて国立大学(鹿児島大、愛媛大)から3名と私立大学(同志社大、近畿大、名古屋商科大)から3名であった。講義内容及び研修目的は当館報 Vol. 9, No. 3, p. 5-6 (1984) に佐藤義則氏がすでに報告しているものとはほぼ同じであるので、再掲を避け、特に印象の深かったことを述べてみたい。それは当セミナーにつきもののレポート作成についてである。開講式の説明ではオブションであるということなので安心していたら、実際はどうもそのようなものではなく、但し書き付きであった。オブションだけでも今までセミナー受講生で出さなかった人はいないというのであ

る。セミナー後半の9月から10月にかけては、この作成のため、センターから帰るのは毎日夜11時すぎでメ切間際になると日曜祝日もセンターに行くようになった。幸い何とかメ切までは提出することができたが、この作成の過程で非常に貴重な体験をした。即ち、レポート作成の資料を集める関係で図書館を利用者の立場からみることができたことである。日頃図書館の使命とか情報の収集とか言っている、それはどうしても利用されるという立場の域を出ないもので、利用者の情報を求める切実さとかいう感情的な面までは理解していたとは言いがたい。この要求の切実さを實際肌で感ずることができたという点だけでも、セミナーに参加した意義があったといえるのではなかろうか。最後にこのセミナーに参加させてくれた図書館の皆様とお世話頂いた学術情報センターのスタッフの方々に感謝し報告とする。

大学図書館職員長期研修に参加して

農 学 分 館 前 田 裕 子

幸運にも第18回長期研修に参加出来る機会を与えられ、7月28日～8月16日の3週間を暑い筑波と東京で過ごす事になった。職場は電算化にむけてIDラベル貼付の真只中、そして個人的な悪条件をかかえながら、女性だからこそ頑張らなければという気持と不安な気持とが入り混じっての参加となった。

今回の研修で一番大きな柱となっていたのは、図書館業務の電算化であり、その為講義のあちこちに電算化に関する内容が盛りこまれてあった。又大学図書館自体もいろいろな意味で過渡期をむかえており、今回たくさんの先生方の講義を受けて、20年近く図書の仕事をしてきた私にとって特に再認識出来た事は、研究者が自分達の研究を行

なっていくには図書館がいかに機能的に動いているかということと利用者の図書館員への大きな期待であった。こうした利用者の要求に応えるために、我々図書館員はもっと広い観点にたって図書館業務を見つめながら、毎日の努力と一つ一つの経験を積み重ねていかなければという思いを一層強く感じた。

今回の研修で北から南までたくさんの方と知り合いになる事が出来、夜遅くまで話に花を咲かせたり、又暑い夏のさ中の図書館情報大学の方々の暖かい心遣いなど数えきれないほどの思い出を残してくれた。これも職場の方々の暖かい協力と励まし、そして家族の協力があったからこそと感謝の気持でいっぱいである。

第41回東北地区大学図書館協議会総会

標記の総会は、9月25日～26日の両日福島県立医科大学が当番校となり、福島県飯坂町、あづま荘を会場に加盟館49館から61名が出席して開催された。

協議に先立ち福島県立医科大学松川学長の挨拶があり、次いで議長団の選出を行い、会務報告、一般報告、昭和60年度決算報告、監査報告の後、次の協議題について討議が行われた。

1. 協議会会則の改正について
2. 表彰規程の改正について
3. 東北地区大学図書館所蔵「新聞目録」〈第2版〉の編集・発行について(継続2年目)
4. 協議会誌編集について
5. 元弘前大学附属図書館医学部分館整理係長 齊藤幾弥氏の表彰について
6. 昭和61年度予算(案)について
7. 次期総会開催について

1, 2については、原案どおり承認、3, につい

ては、東北学院大学、東北工業大学、東北福祉大学及び東北大学が編集作業担当館となり本版の発行に向け共同作業を行うこととなった。4, は協議会誌編集のための情報提供をもっと組織的に行うため各県にリポーターをおくことなどを含めて検討していくこととした。5, は当協議会表彰規程第2条1項に該当するものとして承認された。6については、1, の会則改正にもとずき年額8,000円を骨子とする予算書を承認した。7, として、次期は秋田地区となっており秋田大学が当番校で開催することとなった。

続いて行われた部会のうち、国立部会では①学術情報センターの対応について各大学からの現況報告と関連する問題点及び②予想される第7次定員削減について活発な情報交換が行われた。

第2日目は各部会の報告の後、承合事項(臨時職員及び学生アルバイトの賃金、各部会としての今後協議する案件)等について質疑応答があった。

昭和61年度第1回附属図書館職員総合研修会

11月7日本館大視聴覚室を会場に、宮城厚生協会産業医学センター所長廣瀬俊雄氏と京都大学教育学部助教授原田勝氏を講師に迎え、昭和61年度第1回附属図書館職員総合研修会が開かれ、約90名の参加者を得て盛会であった。

「業務電算化と職員の健康管理」と題した廣瀬先生の御講演は、VDT作業の特性とそれに起因する種々の症状は、主に作業時の姿勢、作業の長時間連続等によるものであって、機器導入前から周到な準備のもとに事前教育と事前健康診断の実施が必要であり、同時に1人1日当り総従事時間の規制が欠かせない。VDT作業については、人事院はじめ各種ガイドラインが出されているが、職場の実情に見合った遵守可能な規準作りと、随時改訂できる柔軟な運用が特に重要であることを強調された。本学附属図書館としての適切な事前

対策が必要であることが痛感された。

「日本目録規則新版をめぐって—目録システム時代の目録規則」と題された原田先生の御講演は、目録規則とは、国際的ネットワークでの情報流通を基礎に考えるべきものであるとして、世界的に著名ないくつかの書誌ユーティリティーの動向を紹介された後、我国でも書誌ユーティリティーが発達すると、我々の作成する書誌データは今までのようにその大学内だけで見るのではなく、遙かに多くの人々が利用するため、一層品質の高さが求められることになり、高いレベルのカatalogの養成が課題となる。そして、マークデータ利用という利便が増加する一方、オリジナル目録作成上での責任の重さを強調された。

(総合研修委員会)

利用者登録について

附属図書館（本館・分館）では、昭和62年4月より閲覧業務を電算化する予定です。利用者の皆さんにとっては、図書館資料の利用方法がより簡便になります。このためには、あらかじめ「登録申請書」によって利用者登録の手続きをとっていただく必要があります。

利用者登録は、来年度において本学に在職、在籍する教職員、学生の皆さん全員に登録していただくことになります。現在、各館の利用券（入館券、貸出券等）をお持ちになっても、改めて申請していただきます。

利用者登録をした方には「利用者カード」を交付します。このカードは全学の図書館共通に使用

できるものです。従来のように、本館・分館ごとに登録する必要はありません。

この利用者カードは、図書館利用の際に身分を証明するものとなりますので、常時携帯し大切に扱って下さい。一度交付を受けたカードは、在職・在籍期間中は有効です。紛失した時には、直ちに申し出て下さい。

登録申請受付、利用者カードの交付場所は、各部局の図書館（各キャンパス所在の館）のカウンターになる予定です。時期は62年3月下旬～4月上旬を予定しております。詳細については、追って案内・掲示等でお知らせいたします。

昭和60年度・中央図書館利用状況の概要

中央図書館の利用状況について昭和60年度利用統計をとりまとめた。これらのうち主要なものを図表にして次に掲載する。

注：表中の〔 〕内は昭和59年度のデータ。

1. 利用対象者数

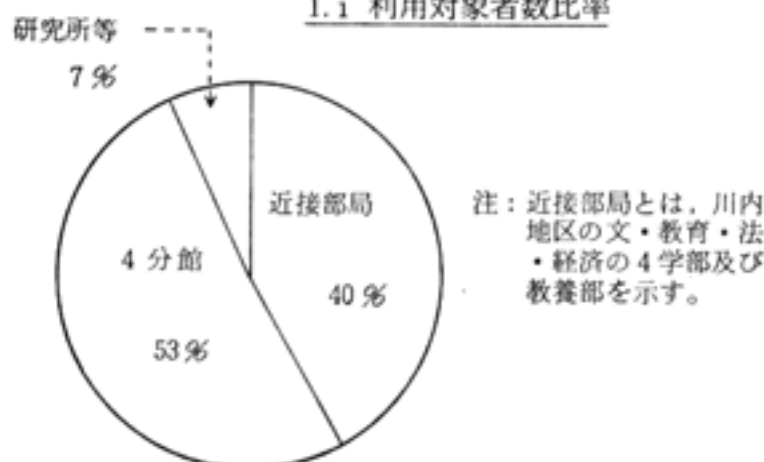
- ・全学総数 18,807人〔18,653人〕
- ・分館（医・北青葉山・工・農学）
利用対象者を除く数 8,818人〔8,800人〕
- ・近接部局利用対象者数 7,564人〔7,551人〕

2. 入館者数（推定）

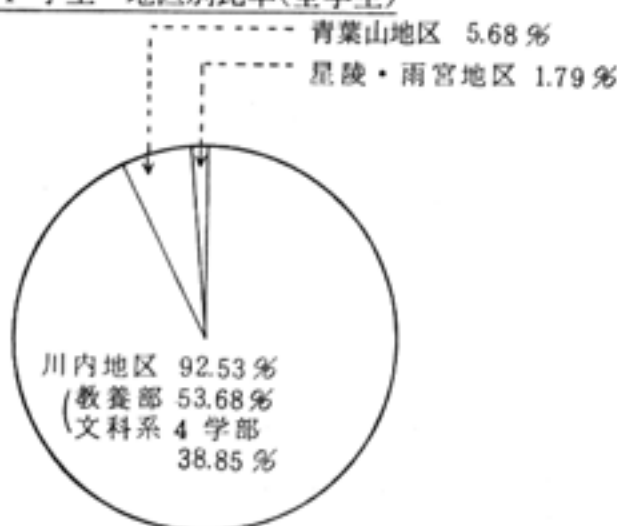
- ・年間総数 491,444人〔455,228人〕
- ・1日平均数 1,695人〔1,575人〕
- ・学生の入館数 460,414人〔416,502人〕

学生・部局別入館者数（入館者実態調査より推計）

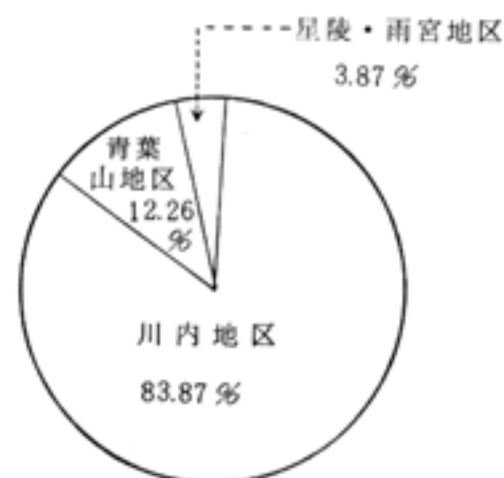
1.i 利用対象者数比率



2.i 学生・地区別比率(全学生)



2.ii 学生・地区別比率(学部学生)

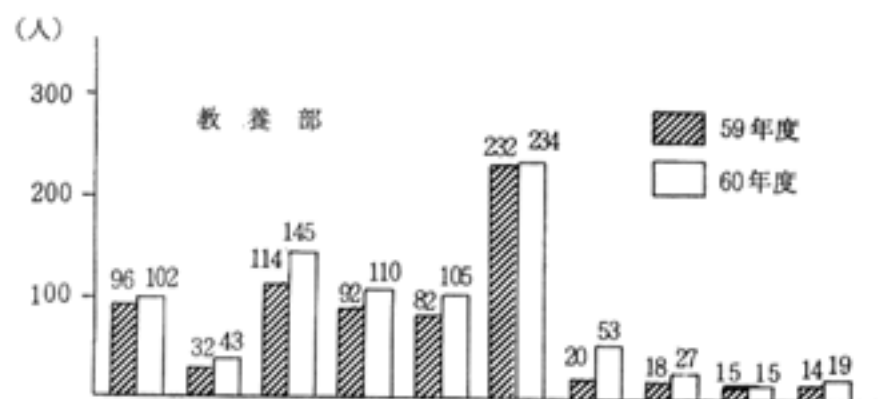


学生・部局別入館者数（入館者実態調査より推計）

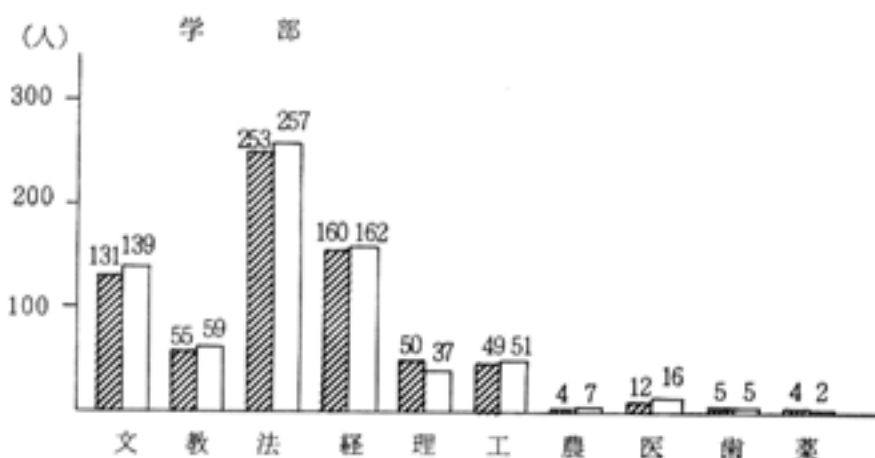
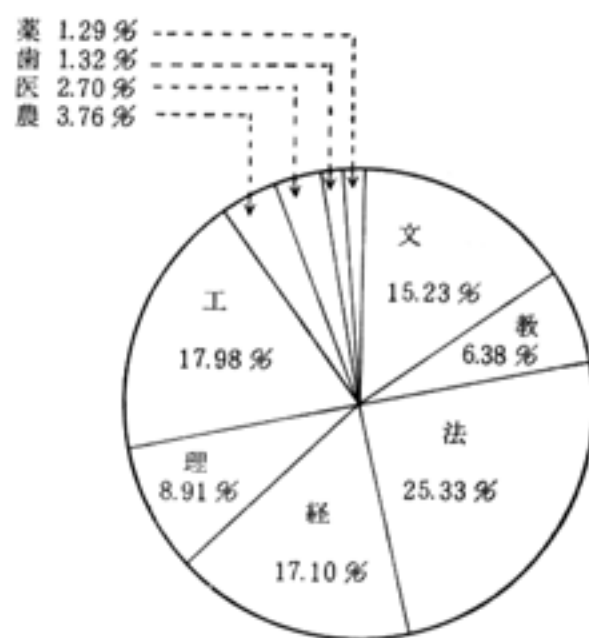
		文	教	法	経	理	工	農	医	歯	薬	計	
												1日平均(人)	在籍1人当(回/年)
教養部	1日平均(人)	102	43	145	110	105	234	53	27	15	19	853	51
	在籍1人当(回/年)	81	85	87	63	48	38	45	30	27	32	[719]	[42]
学部	1日平均(人)	139	59	257	162	37	51	7	16	5	2	735	41
	在籍1人当(回/年)	104	105	135	87	18	9	7	9	5	4	[722]	[41]
計	1日平均(人)	241	102	402	272	142	285	60	43	20	21	1,588	46
	在籍1人当(回/年)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[1,441]	[42]

※ 年間開館日数 290日〔289日〕

学生・1日平均入館者数



学生・部局別比率(教養部を含む)



3. 閲覧・貸出冊数(閲覧・貸出の合計)

イ) 利用者別

	学 生	院 生	教 職 員	学 外 者	計
開架閲覧室資料	41,015	1,347	923	183	43,468
書庫内資料	8,447	10,532	11,484	2,980	33,443

ロ) 資料別

	新分類	旧片平 (新書)	旧教養	狩文 野庫	(旧片平) 古典	個文 人庫	経統 済計	雑誌	その他	計
開架閲覧室資料	40,626	—	994	—	—	—	—	1,210	638	43,468
書庫内資料	12,054	6,480	1,423	2,333	1,746	415	558	7,736	698	33,443
計 [冊]	52,680	6,480	2,417	2,333	1,746	415	558	8,946	1,336	76,911
比 率 [%]	68.5	8.4	3.2	3.0	2.3	0.6	0.7	11.6	1.7	100

4. 入庫者数

院 生	教 官	計
5,151人	2,580人	7,731人
[5,151人]	[2,546人]	[7,697人]

5. 文献複写実績

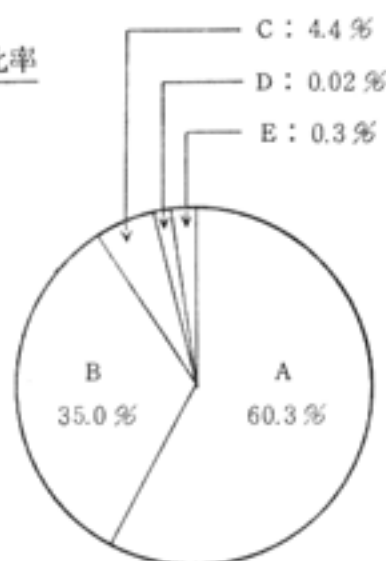
項 目	件 数	枚 数	金 額
学 内	1,196 ^件	16,562 ^枚	662,480 ^円
学 外	2,028	55,667	2,795,470
計	3,224	72,229	3,457,950

6. レファレンス応答件数

区 分		教 官	院 生・学 生	図 書 室	事 務 職 員	そ の 他	計
学 内	人 文・社 会 系	389 [407]	970 [785]	19 [9]	300 [137]	/	4,839 (△119) [4,097]
	自 然 科 学 系 (研究所を含む)	1,393 [1,262]	1,590 [1,247]	59 [163]			
学 外		/	/	/	/	3,270 [3,028]	3,270 [3,028]
計		1,782 [1,669]	2,560 [2,032]	78 [172]	300 [137]	3,270 [3,028]	8,109 [7,125]

(注) △印は教養部教官分で内数

6. i 質問内容別比率

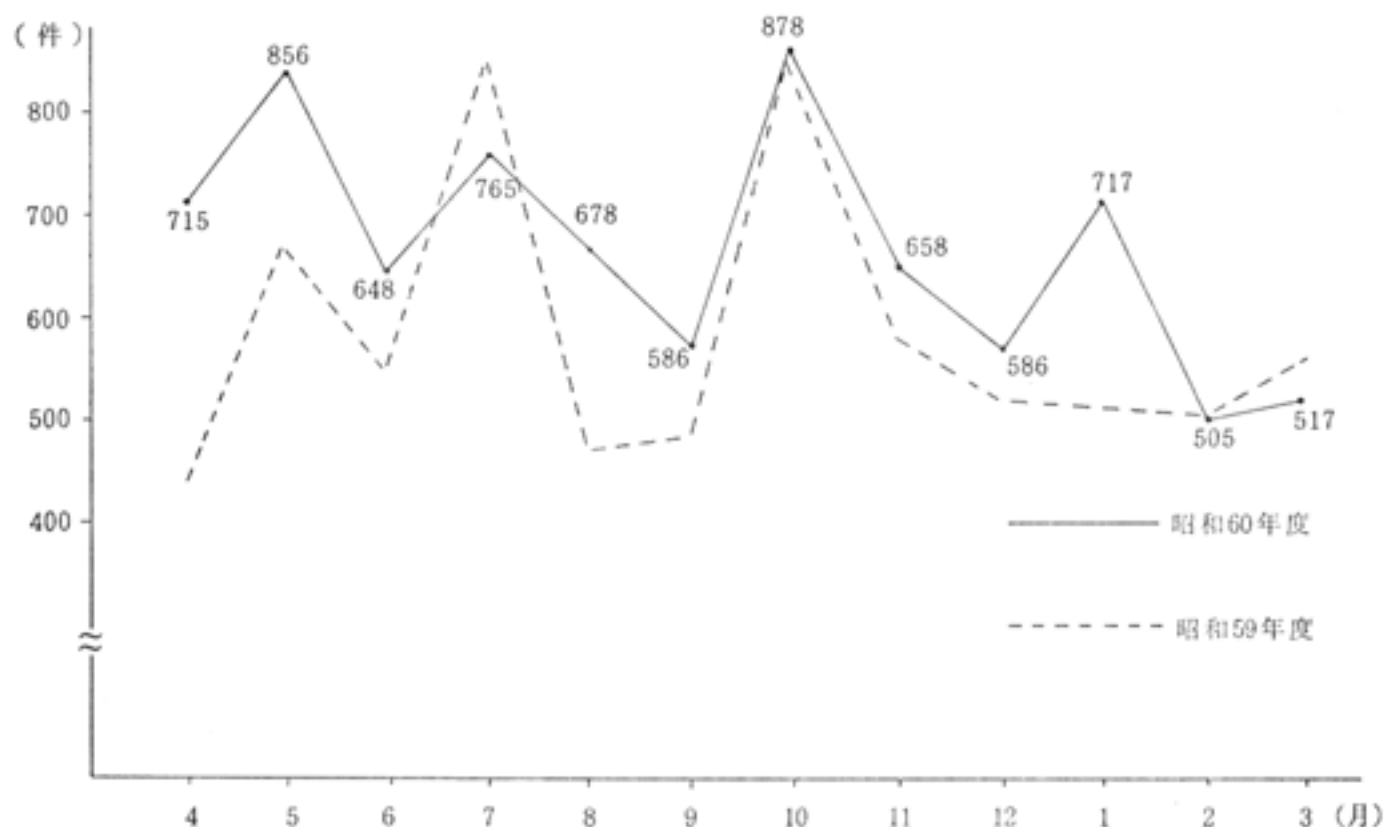


6. ii 質問手段別比率



A : 文献所在調査
 B : 書誌事項調査
 C : 利用案内
 D : 文献目録作成
 E : 機械検索

6. iii 質問件数月別推移



指 定 図 書 に つ い て

昭和62年度の指定図書実施計画をたてるため、本年10月より各学部・教養部の講義担当教官にたいし、その指定方を依頼していましたが、この程リストの提出が終了しましたので、現在それに基づき実施計画をたてています。これらの指定図書は、受入整理後直ちに本館・分館の閲覧室に配架され、利用に供されることとなりますが、講義担

当教官が講義に直接関連する必読書として特に指定した図書ですので、大いに利用されることを願っています。

なお本館では、指定図書のリストを作成し新年度の開講までに担当教官及び学生に配布する予定です。充分に活用されるよう期待いたします。

休館等のお知らせ

年末年始及び年度末の休館・休室及び延長開館の予定は次のとおりです。

休館

- 1. 年末年始：昭和61年12月27日（土）から昭和62年1月5日（月）まで

休室

- 1. 12月下旬並びに3月下旬はそれぞれ数日間、配架整備のため開架閲覧室を閉室する予定です。日程は確定次第お知らせし

ますので、館内掲示にご注意下さい。

延長開館 平日20時、土曜日17時まで（開架閲覧室、カタログホール）

- 1. 昭和61年12月20日（土）まで
- 2. 昭和62年1月9日（金）～2月21日（土）まで

なお、教養部の定期試験時は自由閲覧室も閉室予定ですが、期間については館内掲示でお知らせします。

人 事 異 動

発令年月日	前 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
61. 8. 1	工学分館事務補佐員	小 畑 穂 子	庶務部入試課事務補佐員	配 置 換
"	庶務部入試課事務補佐員	浜 谷 礼 美	工学分館事務補佐員	"